



『ボクたちの値段』

荻原博子／監修 坂本綾子／構成・文
講談社

毎日変わっていくお金をとりまく環境。でも子ども自身もお金に関する考え方を身につけていれば大丈夫。お金は人生の中でどういう役割を果たしているの？ お金とうまく付き合うには？ 大人が読んでもためになる一冊です。



『ぼくが見た戦争』

高橋邦典／写真・文
ポプラ社

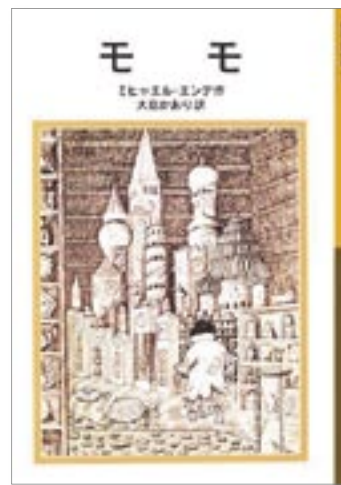
2003年、アメリカはイラクが大量破壊兵器を持っているという理由で、「正義」という名のもと、イラクを攻撃した。人が殺し合う戦争に「正義」などあり得るのだろうか。日本人カメラマンの目を通して本当の戦争の悲惨さが伝わってきます。



『緑の模様画』

高樓方子／著
福音館書店

まゆ子、テト、アミの3人は、誰もいないはずの塔の窓に人影が映るのを見てしまう。その人影には、見た人を仲たがいさせるというジンクスがあったのです。交錯する現在と過去。不思議に満ちた世界が広がっていきます。



『モモ』

ミヒャエル・エンデ／作 大島かおり／訳
岩波書店

町はずれの円形劇場に迷い込んだ不思議な少女モモ。町の人たちはモモに話を聞いてもらおうと、幸せな気持ちになるのです。あの「時間どろぼう」が現れるまでは…。忙しいあなた、この本を読んで“時間”について考え直してみませんか？